

展示室1 小特集 ラファエル前派



バーン＝ジョーンズ「フローラ」

19世紀中頃、ヴィクトリア時代のイギリスに、ハント、ミレイ、ロセッティを中心としたラファエル前派同盟といわれる美術運動が起こりました。彼らは当時の美術界の主流だった16世紀に活躍したイタリアの画家ラファエロの絵画を規範するような古典的な様式に異を唱え、ラファエロ以前の画家たちの素朴な作風に絵画の革新を目指しました。彼らの運動は、バーン＝ジョーンズのように共感する画家を輩出し、次第に象徴性、装飾性を強めていきます。こうした傾向は、イギリス世紀末芸術にも色濃く反映し、周辺諸国にも影響を与えていきました。今回は、ラファエル前派に関連する作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
・ラファエル前派			
ダンテ・ガブリエル・ロセッティ	マドンナ・ピエトラ	1874	パステル・紙
フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のジャコポ・フォスカリ	1869	チョーク・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	キリストの昇天	1875	チョーク、墨・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス
『ザ・ジャーム』の挿絵		1850	エッチング・紙
『ダルジールの聖書ギャラリー』（1881年刊）より			木口木版・紙／ポートフォリオ
『コーンヒル・ギャラリー』（1865年刊）の挿絵			木口木版・紙
『クビドとプシュケの物語』（1974年刊）の挿絵			木口木版・紙
『テニスン詩集』		1859刊	木口木版・紙／本
『宗教詩集』		1863刊	木口木版・紙／本
『人間の一生』		1866刊	木口木版・紙／本
『ジェフリー・チョーサー作品集』		1896刊	木口木版・紙／本
・イギリス近代美術			
ジョン・コンスタブル	テダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス

展示室2 大正から昭和へ ― 日本近代洋画の青春 ―



中村 彝「朝顔」

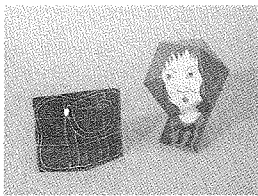
西洋画という新しい芸術に出会い、それを受容していった日本人の芸術家たちは、明治時代の終盤には念願の官設展覧会（文部省美術展覧会―現在の日展）を立ち上げるまでに成長しました。

しかし、明治初期には驚きの新芸術だった西洋画も、19世紀後半には本家のヨーロッパで次々に新しい傾向が出現し、ヨーロッパへ留学した者を筆頭に、それに反応する日本人画家も現れます。彼らは、外光派を主流とする日本洋画壇の体制に反発や不満を抱き、二科会などの新しい団体を立ち上げたりしながら、自らの道を歩み始めます。また、なかには自分自身が日本人であることにこだわり、油絵による日本的、日本人的な表現を追求する者も現れます。いずれも明治時代に日本洋画の基礎を築いた「親」たちから親離れた青年たちのようです。大正から昭和の前半は、まさに日本洋画の青春時代でした。

作者名	作品	制作年	技法・材質
岸田劉生	銀座と数寄屋橋畔	1911(明治44)頃	油彩・板
木村荘八	祖母の顔	1916(大正5)	油彩・板
河野通勢	ホレブの岩		油彩・板
正宗得三郎	東京の郊外		油彩・キャンバス
恩地孝四郎	黒い机	1922(大正11)	油彩・キャンバス
斎藤与里	海辺秋景	1937(昭和12)頃	油彩・キャンバス
小山敬三	裸婦立像	1920-2(大正9-11)頃	油彩・キャンバス

作者名	作品名	制作年	技法・材質
里見勝蔵	軍人	1927(昭和2)	油彩・キャンバス
中川紀元	赤い下着	1920(大正9)	油彩・キャンバス (株興新産業寄贈)
伊原宇三郎	靴職人	1925-9(大正14-昭和4)頃	油彩・キャンバス 武田光司コレクション寄贈
中山 巍	赤ジレ座婦	1927(昭和2)	油彩・キャンバス
中川一政	冬の郊外(葱畑)	1918(大正7)頃	油彩・キャンバス
安井曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス
小出楯重	自画像	1918(大正7)	油彩・キャンバス
藤島武二	「耕到天」習作	1936(昭和11)	油彩・キャンバス
中村 彝	朝顔	1923(大正12)	油彩・キャンバス
山下新太郎	苔寺	1922(大正11)頃	油彩・キャンバス
曾宮一念	静物	1918(大正7)	油彩・キャンバス 武田光司コレクション寄贈
榊原一廣	塔の見える風景	1924(大正13)	油彩・キャンバス
上野山清貞	サイパンにて	1925(大正14)頃	油彩・キャンバス

展示室3 秋山泰計からくりワールド



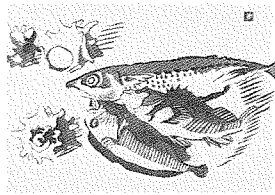
秋山泰計「おびからくり」

白黒の反転と交錯する輪郭を駆使した画面構成によって、ユーモアとアイロニー漂う独自の表現世界を確立した版画家・秋山泰計(あきやま たいけい 1927-86)。身近な風景や人物を力強く表現していた初期の作品でも、たとえば忙しく働く大工を下から見上げるなど、ユニークな視点が見られます。1970年代以降は「おびからくり」と名づけた紙の造形作品を考案し、造形デザイナーとしても活躍しました。

版画とおびからくり — 秋山泰計のからくりワールドをお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
秋山泰計	ひとり十人	1961(昭和36)	木版・紙
	大工A	1963(昭和38)	木版・紙 秋山照子氏寄贈
	大工B	1963(昭和38)	木版・紙 秋山照子氏寄贈
	春宵	1968(昭和43)	木版・紙
	同行二人	1970(昭和45)	木版・紙 秋山照子氏寄贈
	同行二人(バリエーション)	1970(昭和45)	木版・紙
	仮面	1972(昭和47)	木版・紙
	母子像	1973(昭和48)	木版・紙
	母子像(バリエーション)	1973(昭和48)	木版・紙 秋山照子氏寄贈
	筋のない話(B)	1974(昭和49)	木版・紙 / 二曲一隻屏風
	筋のない話(C)	1974(昭和49)	木版・紙 / 二曲一隻屏風
	ロデオ	1974(昭和49)	木版・紙 / 二曲一隻屏風
	Venus[ヴィーナス]誕生	1983(昭和58)	木版・紙 秋山照子氏寄贈
	三部作 夢の旅Ⅰ(群鳥)	1985(昭和60)	木版・紙
	三部作 夢の旅Ⅱ(象・鬼牡丹)	1985(昭和60)	木版・紙
	三部作 夢の旅Ⅲ(富士見逆さま)	1985(昭和60)	木版・紙
	手品	1985(昭和60)	木版・紙
	街の魚屋	1985(昭和60)	木版・紙
	Yaoyorozoo・八百萬	1985(昭和60)	木版・紙
	おびからくり(少女⇄サルの親子)		紙、布 三木多聞氏寄贈
	おびからくり(キジ⇄キツネ)		紙、布 田口安男氏寄贈
	おびからくり(スイカ⇄ヘビ)		紙、布 田口安男氏寄贈
	おびからくり(ウマ⇄黒カバン)		紙、布 田口安男氏寄贈

展示室4 版画をたのしむ

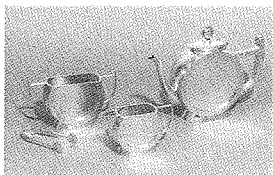


安井曾太郎「魚とさざえ」

木や消しゴムなどを彫って版画をつくった経験はありませんか？私たち日本人は、江戸期の浮世絵版画が人気を博したように、古くから版画に親しんできました。現代にみられる様々な版画の技法は、かつて印刷技術として本の挿絵や新聞の付録、地図などに用いられていました。暮らしの中に息づく版画は、美に対する私的な感受性を身近に分かち合える魅力を備えています。季節感や詩情を味わいながら、お気に入りの作品をみつけてください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
山本昇雲	『今姿』より 酔いけしき	1906 (明治 39)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
山本昇雲	『今姿』より おこしかけ	1909 (明治 42)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
山本昇雲	『今姿』より ゆり園	1906 (明治 39)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
宮川春汀	『美人十二ヵ月』より 其四 牡丹	1898 (明治 31)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
宮川春汀	『美人十二ヵ月』より 其五 藤見	1898 (明治 31)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
安井曾太郎	「安井曾太郎版画集」より 初夏	1933 (昭和 8)	木版・紙/ポートフォリオ	
安井曾太郎	「安井曾太郎版画集」より 薔薇	1932 (昭和 7)	木版・紙/ポートフォリオ	
安井曾太郎	「安井曾太郎版画集」より 魚とさざえ	1934 (昭和 9)	木版・紙/ポートフォリオ	
斎藤 清	作品		木版・紙	
川上澄生	夜の銀座	1929 (昭和 4)	木版・紙	
川上澄生	『文明開化往来』書窓版画十連聚 其三	1941 (昭和 16) 刊	木版・紙/本	
川西 英	『サーカス』	1934 (昭和 9) 刊	木版・紙/本	
川西 英	『港都情景』書窓版画十連聚 其二	1941 (昭和 16) 刊	木版・紙/本	
森田恒友	日本風景版画 第二集より 磐梯山麓小湖	1917 (大正 6) 刊	木版・紙/ポートフォリオ	
坂本繁二郎	日本風景版画 第六集より 水繩山	1916 (大正 5) 刊	木版・紙/ポートフォリオ	
小泉葵巳男	『HANGA』第七輯より 山の湖水	1925 (大正 14)	木版・紙/ポートフォリオ	
川上澄生	『HANGA』第八輯より 風景	1925 (大正 14)	木版・紙/ポートフォリオ	
谷中安規	鍵 (詩画集の 8)	1933 (昭和 8)	木版・紙	
斎藤 清	MADITATION 黙想	1969 (昭和 44)	ドライポイント・紙	
駒井哲郎	鳥と果実 (小)	1959 (昭和 34)	エッチング、アクアチント・紙	
斎藤寿一	波と月 (B)	1964 (昭和 39)	ディープエッチング・紙	
浜口陽三	西瓜	1968 (昭和 56)	メゾチント・紙	
泉 茂	ほらふき	1958 (昭和 33)	リトグラフ・紙	
浜田知明	アレレ・・・	1974 (昭和 49)	エッチング、アクアチント・紙	
愛 謳	テル・ミー・ナウ	1966 (昭和 41)	シルクスクリーン・紙	

展示室4 イギリスの工業デザイン



クリストファー・ドレッサー
「銀製ティーセット」

私たちの身のまわりをとり囲む様々なものたちは、生活を物質的に豊かにしてくれると同時に、それらが機能的かつデザイン的にもすぐれたものであるならば、それらを使う私たちの心も豊かにしてくれます。ここに並ぶ作品は、本来美術館という半ば非日常的な場所に展示されるために作られたのではなく、日々使うものとして生み出されたものです。イギリスのデザイナーであるクリストファー・ドレッサー (1834-1904) は、日用品としての実用性と美を兼ね備えた様々なデザインの食器類や調度品をプロデュースしました。また彼は 1876 (明治 9) 年には来日し日本各地を回り、日本美術や東洋美術に影響を受けた作品も作りだしました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	色絵椿文龍花瓶	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	デカンター・セット (栓付き細首ぶどう酒瓶)		ガラス、金属金具、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック (ポイントアーチ型)	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック (楕円形)		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	日本風把手付き薬味入れ		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	六角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレット・ジャグ (ぶどう酒用容器)		ガラス、金属金具、電気メッキ

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	クラレット・ジャグ (ぶどう酒用容器)		ガラス、金属金具、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレット・ジャグ、黒檀把手 (ぶどう酒用容器)		ガラス、金属金具、銀金具
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット (穴あきふるい付き)	1884	金属、銀メッキ
クリストファー・ドレッサー	ミルク入れ	1880	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	銀製ティーセット	1885	銀、象牙、金メッキ
クリストファー・ドレッサー	ダブル・バスケット (楕円形)	1880	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	蓋付きバスケット、黒檀製把手		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	蓋付きスープ入れ		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル (サーバー付き)	1879 - 82 頃	陶器、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	染付鳥波濤文把手付鉢		磁器
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	金彩筒型三足花器		磁器
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892 - 95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢箪形壺	1892 - 95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉球形花生	1892 - 95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地線文把手付花瓶 (一対)	1892 - 95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	うに形容器	1879 - 82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉人物文扁壺	1879 - 82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	塩入れとスプーン	1884 年	銀
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮華刻文皿	1879 - 82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄緑釉アールヌーヴォー風装飾文皿	1892 - 95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵草花文隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様隅切角皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様長皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様大皿	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様皿	1886	陶器

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階エントランス				
アントニー・ゴームリー	量子雲ⅩⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域ⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
●1階展示ロビー				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
●1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
●2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
柳原義達	黒人の女	1956(昭和31)	ブロンズ	
舟越保武	少女	1956(昭和31)	砂岩	
三坂耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ	
佐藤静司	女の首	1971(昭和46)	木彫	
●屋外				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	

※作品は都合により一部展示替えを行うことがあります。